

1 由良川浸水対策

由良川沿川では、平成16年台風23号の甚大な被害を受け、由良川河川整備計画(おおむね20〜30年の計画)に基づく治水対策事業を約10年に短縮し、平成16年から由良川下流部緊急水防対策事業(平成27年完了)を実施。平成25年からは由良川緊急治水対策事業として、平成16年台風23号と平成25年台風18号で2度浸水した地区を対象に、急ピッチで由良川の治水対策が進められてきました。

由良川沿いの舞鶴市域の各地区での対策は、宅地かさ上げや輪中堤(※1)の築造事業が順次進められ、宅地かさ上げは90軒(令和3年8月末時点)が完了し、輪中堤については平成25年から着手された下東地区と三日市地区でも令和2年に「輪中堤本体」と「樋門」(※2)が完成しました。計画されている全ての輪中堤が完了することとなり、由良川の洪水から命と財産を守る機能が整いました。現在は「水路整備」などの輪中堤の周辺整備工事や由良川の流下能力を高めるための河道掘削工事が進められています。

※1…一定の区域を河川の氾濫による水害から守るため、その区域を囲むように造られた堤防のこと。

※2…由良川の水位が洪水などで高くなつた時に、その水が輪中堤内に逆流しないようにする施設。



▲樋門



▲水間地区 (水間・水間下・中山)



▲下東地区 (下東)

2 西市街地浸水対策

平成30年の7月豪雨の時には約1500戸の床上浸水、約4000戸の床下浸水が発生した高野川流域。高野川流域の浸水メカニズムは川の水が護岸を超えて川からあふれる「越水」、増水した川の水が排水管を逆流して平地にあふれ出す「逆流」、雨水を川に排水したいが増水などで排水できないことによる「内水」などの複合的な要因で発生しています。

こうした複合的な水害に対して、市は府と連携・調整をしながら総合的な治水対策に取り組んでいます。「越水」対策として、高野川を管理する府が河道掘削など、河川整備を行い、「内水」「逆流」対策として、市が内水排除ポンプ、逆流防止施設などの設置、排水路の改修などを行っています。

令和元年からおおむね5年間で、高野川河口から堀上橋までの第1期区間の河川整備と内水対策を、また、次のおおむね5年間で堀上橋から出雲谷橋までの第2区

間を実施する予定です。第1区間の整備が完了すると、平成16年台風23号と同規模の洪水に対して床上浸水被害が解消される見込みです。



▲高野川整備区画



▲大手ポンプ場の完成予想図

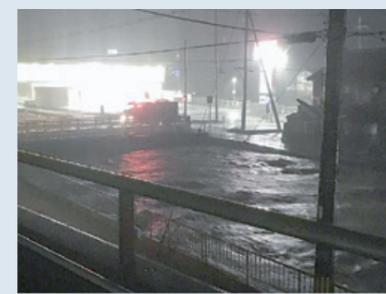
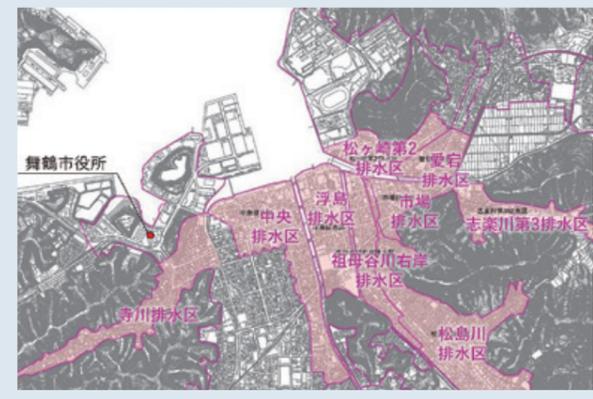


▲建設中の大手ポンプ場

3 東市街地浸水対策

舞鶴市の水害といえば、由良川や高野川などのある西地区が注目されがちであり、実際、浸水対策についても西地区を中心に実施されてきました。しかし、東市街地でも平成16年から4回の浸水被害が発生し、平成29年台風21号では約3700戸もの家屋が浸水しました。これを受け、東市街地の浸水対策として、府と連携して浸水メカニズム調査会議を開催し、議論を重ね、昨年度に雨水管理総合計画を策定しました。

これまでの浸水被害の実績をまとめ、平成16年〜30年度で被害が発生した9つの排水区を重点対策地区として定め、被害のレベルに応じて優先順位を決定し、浸水対策事業を進めます。具体的な浸水対策は各排水区の地形的要因などの特徴を見ながら、さまざまなことを検討し総合的に取り組んでいきます。



▲重点対策地区 (上) 浸水する東市街地 (右下、左下)



11 住み続けられるまちづくりを

住み続けられる

4 A-yaootを活用した浸水対策

災害時には、気象警報等、雨雲の動き、雨量、土砂災害警戒情報、川の水位・氾濫・浸水情報など膨大な災害・防災情報が溢れます。市はその膨大な情報の中で、適切な現場への指示や避難所開設の判断、市民への必要かつ重要な情報の配信などを行う必要があります。国ではそうした災害時に市町村が適切に判断を行うための支援システム「市町村災害対応統合システム」の開発が進められています。同システムは、災害時のさまざまな情報を基に、A-yaootを活用して250〜400四方、6時間先までの災害情報を予測することができ、市はその先行モデル自治体(全国で7自治体)として実証実験が行われています。将来的には同システムと7月28日から配信を開始した「舞鶴市総合モニタリング情報配信システム(左コードからアクセス可)」を連動させることで、避難を必要とする区域をより細分化し、より適切なタイミングで避難情報を提供していきます。

※舞鶴市総合モニタリング情報配信システム：オムロンソーシアルソリューションズ(株)やKDDI(株)などの民間企業、舞鶴高専と連携し運用を開始した、河川の水位状況をリアルタイムに確認でき、より安全な避難行動につなげるためのシステム。現在は第一ステップとして水位情報を提供している。



▲システムの今後のイメージ



▲舞鶴市モニタリング情報配信システム

まちづくりへ

